

移動式赤ちゃんの駅の導入



はやし しょうこ
林 昌子
議員

質問 移動式赤ちゃんの駅とは、授乳室、オムツ替えベッド、ミルク用のお湯が利用できる移動可能なテナントのことである。野外イベント会場に貸し出しもでき、子育て環境整備の一環として、導入する考えは。

答弁（保健福祉部長） 役場庁舎東側及び中央公民館内の多目的トイレ内に折り畳み式オムツ交換台を設置。また、子育て支援センターや保健センター、各保育所でもオムツ交換や授乳ができる対応をとっている。移動式赤ちゃんの駅については、安心して子育てができる環境づくりと災害時への

備えなどの活用方法を想定し、他自治体の状況等を参考に、関係部局と協議し、導入に向け検討する。また、メール等で団体や企業にも協力をお願いをしている。



移動式赤ちゃんの駅

施設案内板について

質問 村内の施設を初めて利用する場合には、案内板が頼りとなる。また、説明する場合も案内板があれば明確に説明ができる。そこで、村内の看板設置基準と現在の設置状況について。

答弁（総務部長） 主要道路沿いには大きな看板・案内板の設置はあるが、案内板がないところや、文字等が小さかったり、薄かったり、電柱等の陰になって見づらいたところもあり、不適切な案内板等があるのが現状である。また本村と、稲敷市、阿見町、河内町と一部施設の相互利用ができる協定を結んでいることから、施設案内板は重要な役目をするものと考ええる。なお、案内板の設置基準はない。今後、新規設置や修繕等に当たっては、国や県等の指針を参考に、見やすい看板の基本に立って設置をしていきたい。

質問 村内の案内板の設置状況を調査し、案内板がない場所や、見にくい場所を資料提出したが、今後案内板の設置に当たり、どのような観点で取り組むのか。

答弁（総務部長） 初めて村内を訪れた方の目線に立ち、見やすい場所へ誘導標示設置の明確化を基本として取り組んでいく。電柱広告も選択肢として利用可能か検討していく。

答弁（村長） 東電の電柱については、自治体の場合は無償で協力していただけるので、村内を全部点検し設置をしていきたい。また、案内板を見やすくするため、一番いい方法の設置を考えていく。



見えづらい案内板（木原地区多目的集会施設入口）